

# 同志社大学

## 2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年 3月 15日提出

所属	職名	氏名
心理学部	助教	菊谷まり子
研究題目	未来の行動を想像する際にとる観点が実際の行動意欲に与える影響	
研究成果の概要	<p>自分がある行動をしている場面を想像すると、その後実際にその行動をしようとする意欲が高まったり、実際に行動に踏み切る可能性が高くなることが言われている(e.g. Pham &amp; Taylor, 1999)。さらに、メンタルイマジネーションを描く時に自身の目から見た状況を想像する場合と他者の視点から自分自身を見た状況を想像する場合とを比べると、後者のイメージのほうが実際の行動により大きな影響を与えたとの報告がある(Libby et al., 2007)。本研究では実験参加者にデンタルヘルスにかかわる行動を自身の視点、または第三者視点を使ってイメージしてもらいどちらの視点がイメージ後によりその行動をする意欲が高まるか調査した。特に、第三者からの視点や評価に敏感な性格な人ほど、第三者視点のメンタルイマジネーションの影響を受けやすいのかどうかを検討するため各被験者が他者の視点を気にする度合を質問紙で測った。またイメージする場面に他者が登場するかどうかを操作した。</p> <p>ケント大学(イギリス)の Uskul 教授と協力して3つ実験を行った。第一実験ではイメージする場面に他者が登場する場合(洗口液を買う)、第二実験では登場しない場合(デンタルフロスを使う)を使い、第三実験では第二実験の手法を使ったが行動をイメージしてもらう前にフロスを使わなかった場合に起こりうる個人的な悪影響(歯の痛みなど)を書いたメッセージを読むグループと、社会的な悪影響(口臭で他人を不快にするなど)を読むグループに実験協力者を分けて調査した。</p> <p>結果、視点の違いやイメージ場面における他者の存在は第三者の視点を気にする傾向が強い人たちだけに影響を与えた。イメージ場面に他者がいる場合、そのような人たちは第三者視点を使ったほうがその後の行動意欲が高まった。しかしイメージ場面に自分しか登場しない場合、彼らは逆に自分自身の視点を使ったほうが行動意欲が高まった。この結果はイメージ前にフロスを使わなかった場合の個人にかかる影響を読んだ場合も全く同じであったが、自身の視点の有用性は社会的な悪影響を読んだ場合には消えた。常に他人の評価を気にする傾向のある個人は、自分の行動が実際に他者の目に触れているかに非常に敏感であり、逆に他者がいない場合は自身の価値を重要視しようとする傾向がある。この行動指標の切り替えがイメージ時により行動意欲を高める視点と合致すると思われる。</p> <p>この研究をまとめた論文は Journal of Experimental Social Psychology に投稿し、2014年1月に一次査読を経た。2月末に同論文の再投稿を終え、現在第二次の査読中である。</p>	